

## 千葉県内の自治体では観光PRやイメージアップなどを狙った「ゆるキャラ」が続々誕生

全国各地で「ゆるキャラ（ゆるいマスコットキャラクターの略称）」ブームが広がっている。

千葉県内でも、多くの市町村で登場しており、既に25の市町村がホームページ（HP）で紹介している。2010年には下表のとおり、館山市をはじめ、成田市、佐倉市、鴨川市、勝浦市などで新しく誕生した。

このうち、館山市では10年12月に市のマスコット「ダッペエ」犬が登場した。ダッペエの名前の由来は、南房総の方言「～だっぺ！」（「～でしょう」などの意で、語尾につく）。地元での評判も上々で、ツイッターやブログでの発信も始めている。同市商工観光課では、「ダッペエ」犬を今後観光PRなどとして活用していく予定。

一すでに各種イベントや1月30日の若潮マラソンなどへの出演依頼がきているほか、市内の商店やお土産業者などから、キャラクターとしての商品開発の話も出ており、今後は地元経済団体や商店街、観光施設などと広くタイアップしていきたいとのこと。

千葉県でも、ゆめ半島千葉国体、ゆめ半島千葉大会で人気の出た「チーバくん」を11年1月から県のマスコットにして積極的にPRしていく方針。また市政の周年記念事業の一環として、観光PRのため新しいマスコットキャラクターの採用を検討している自治体もある。

こうしたマスコットキャラクターの採用は、市町村にとって地域のイメージアップや情報発信の有効なツールであり、地元の観光施設や特産品、キャラクターグッズとの相乗効果によって商店街や観光地などの地域活性化につなげることを狙いとしている。全国各地で多数の「ゆるキャラ」が続々と登場しているが、その中で知名度を上げ、長続きさせていくためには、地元市町村や各種団体、住民などが協力しあって、地域の魅力を高める努力を続けるのはもちろん、地元自身が新たな観光資源としてキャラクターを育てていく必要がある。この点について、館山市では、「何よりも地元の子供たちに馴染んでもらって、人気が出るのが一番大事」として、地元保育園でのクリスマスパーティーでデビューし、園児たちに大歓迎されている。

(森)

### ◆2010年に県内市町村で活躍した主なマスコット

県市町村名	キャラクター名 (誕生時期)	由来、特徴、活用方法等
千葉県	"チーバくん (07年1月)"	ゆめ半島千葉国体、ゆめ半島千葉大会でのチーバくん関連グッズは10年9月15日時点で売上9億7千万円、収益450万円となっている(県に申請があった届出ベース)。幅広い世代から人気が出たのを受け、県は11年1月から県の公式マスコットにすることを決めた。
成田市	"うなりくん (10年4月)"	名前は成田市名物「うなぎ」と「なりた」から由来。デザインは飛行機の形になっている。10年10月に行われた「ゆるキャラまつりIN彦根」で170体のゆるキャラの人気投票で全国8位を獲得。成田市特別観光大使として活用。11月からは関連商品の取扱いも開始。
館山市	"ダッペエ (10年12月)"	同市出身アニメ作家文原聡氏が作成。房総の方言「～だっぺ！」が名前の由来。館山を舞台とした里見八犬伝の「八房」の末裔。市によると、チーバくんを引き立てる姑息キャラを狙っている。今後は、キャラクターの商品化や地元経済団体や商店街とのタイアップで地域を活性化させるために活用していく方針。
鴨川市	"たいよう君、まつっ、 ななちゃん(10年1月)"	市のシンボル「菜の花、松、鯛(たい)」を元にデザインされた。3人の妖精でやわらかいキャラクター。キャラクター商品の製作に活用されている。
佐倉市	"カムロちゃん (10年8月)"	「佐倉・城下町400年記念」事業のイメージキャラクター。「カムロ」とは、「おかつは頭の子ども」という意味。市の広報誌に4コマ漫画のキャラクターとして活用されている。
勝浦市	"カッピー (10年5月)"	勝浦市の特産品であるカツオをマスコットデザインに活かしている。「カッピー」のご当地ソングやダンスで、主に勝浦市と水産業のPR活動を行っている。

### ◆その他県内市町村の主なマスコット

千葉市	ちはなちゃん
銚子市	超Cちゃん
船橋市	汗 一平/風 さやか
野田市	やんわり まえだ君
柏市	カシワニ
君津市	きみびよん
富津市	ふつつん
袖ヶ浦市	ガウラ
八街市	ピーちゃん、ナツちゃん
白井市	なし坊ファミリー
富里市	とみちゃん、とみおくん
匝瑳市	あっぱいちゃん
東庄町	コジュリンくん
一宮町	いっちゃん
睦沢町	うめ丸
長生村	たいよう君
白子町	げんき君
御宿町	エビアミーゴ
鯉南町	なんぼーくん

(注) 横ちばぎん総合研究所が各市町村のHPより作成。